

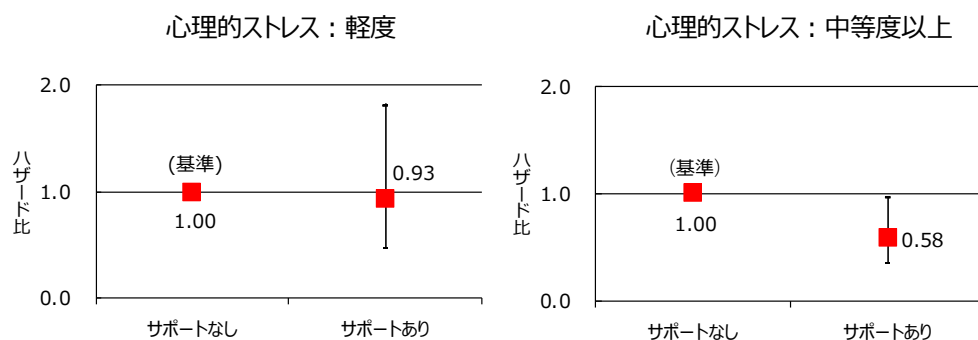
心理的ストレスによってソーシャルサポートと自殺死亡リスクの関連は変化するか？

How does social support modify the association between psychological distress and risk of suicide death?

2022 年 Depression and Anxiety 発表

心理的ストレスが中等度以上の人において、ソーシャルサポートがある人では自殺死亡リスクが有意に低い

これまでの研究からソーシャルサポートが自殺予防において重要であることが報告されていますが、心理的状态がソーシャルサポートと自殺死亡との関連にどのように影響するかはわかっていませんでした。そこで、前向きコホート研究を行い、心理的ストレスが軽度の群（K6 が 4 点以下）と中等度以上の群（K6 が 5 点以上）に分けて、ソーシャルサポートと自殺死亡リスクとの関連について検討を行いました。その結果、心理的ストレスが中等度以上の群では、ソーシャルサポートがある人では自殺死亡リスクが低くなることが分かりました（図）。また、ソーシャルサポートの内容では、心理的ストレスが中等度以上の群において、手段的ソーシャルサポートがある人で自殺死亡リスクが低くなっていました。



研究データについて

本研究は、2006 年 12 月に実施した大崎市民健康調査のデータを用いて分析を行いました。大崎市民健康調査は調査開始時点で 40 歳以上であった住民 77,235 名を対象にアンケート調査を実施し、49,603 名から有効回答を得ました。本研究ではこのうち、調査開始以前に転出または死亡された方、ソーシャルサポートについての回答がなかった方などを除いた 43,015 名について分析を行いました。平均追跡期間は約 10 年間で、自殺死亡者数は 112 名でした。

ソーシャルサポートについて

ソーシャルサポートについては、アンケートの回答から情報を得ました。具体的には、①「困った時の相談相手がいますか」、②「体の具合が悪い時の相談相手がいますか」、③「日常生活を援助してくれる人がいますか」、④「具合が悪い時に病院に連れて行ってくれる人がいますか」、⑤「寝込んだ時身の回りの世話をしてくれる人がいますか」の 5 つの質問を行い、それぞれのサポートについて「ある」「ない」から選択していただきました。5 つの質問にすべて「ある」と回答した方を「ソーシャルサポートあり」群、5 つの質問のうち 1 つでも「ない」と回答した方を「ソーシャルサポートなし」群としました。また、心理的ストレスは K6 で調査し、軽度「0-4 点」、中等度以上「5 点以上」と定義しました。解析では、心理的ストレスが軽度、中等度以上のそれぞれの群で「ソーシャルサポートなし」群に比べて、「ソーシャルサポートあり」群で自殺死亡リスクがどれだけ低くなっているか検討しました。またソーシャルサポートの内容（①②を情緒的ソーシャルサポート、③④⑤を手段的ソーシャルサポート）による違いも検討しました。

他のリスク要因について

自殺に関して様々なリスク要因が知られており、さらにそれらの要因が複雑に影響しあっていると言われています。そのためこの研究では、ソーシャルサポートと自殺死亡に関連すると考えられる要因の影響を考慮したデータ解析を行っています。具体的には、年齢、性別、喫煙、飲酒、body mass index、教育歴、1日の歩行時間について、ソーシャルサポートの有無によって解析対象を分けた際に、偏りがなくなるように統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

この研究の結果は、一般住民を対象とした大規模調査に基づいて様々な要因の影響を考慮した解析手法から得られたものです。ただし、この研究では、(1)ソーシャルサポートの評価について5つの質問しか行っていない点、(2)実際にソーシャルサポートを受けているか、またはソーシャルサポートがあると感じているのか、についての評価ができていない点、(3)自殺直前の精神疾患の有無や自殺された理由について評価ができていない点、(4)の評価は調査開始時点にしか行っておらず、その後のサポートの変化の影響が分からない点、(5)全ての交絡しうる要因を考慮できていない点、などの限界もあります。
